

## 〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

1月報

### インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

#### インフルエンザ

報告数は5,495件(前月比0.8、前年同月比0.3)で、前月より減少しました。今シーズンは流行が例年より早く始まりましたが、報告数は7年ぶりの低水準です。例年1月から2月にピークを迎えますので、今後の発生状況にはまだ注意が必要です。天草、人吉、次いで有明、菊池地区からの報告が多いようです。

### 小児科定点

#### (全体傾向)

報告数8,599件(前月比0.76、前年同月比0.42)で、前月に比べて減少しました。主にインフルエンザ、感染性胃腸炎の報告数が減少したことが影響しています。流行期のインフルエンザが6割強(5,495/8,599)を占めています。手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎は減少しました。RSウイルス感染症、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑は増加しました。

#### (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数37件(前月比2.6、前年同月比0.3)でした。9月をピークとして減少傾向が続いていましたが、増加に転じました。1歳児を中心として、2歳以下の報告のみです。八代地区から多く報告されました。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数119件(前月比0.6、前年同月比1.0)でした。10月以降増加傾向でしたが、1月は減少に転じました。年齢別では1～2歳の患者が多いようです。水俣、菊池地区から多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数516件(前月比0.9、前年同月比1.2)で、前月よりも若干減少しましたが、例年よりも高いレベルが続いています。前月同様3～6歳の報告が多くなっています。宇城、菊池地区から多く報告されました。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,451件(前月比0.5、前年同月比0.7)で、前月の半数に減少しました。年齢別では1歳から5歳までの報告が多くなっています。菊池、山鹿、御船、人吉地区から多く報告されました。
5. 水痘 : 報告数85件(前月比1.0、前年同月比0.9)で、前月比、前年比とも大きな変動はありません。御船、八代地区からの報告が多くなっています。
6. 手足口病 : 報告数144件(前月比0.4、前年同月比2.9)で、前月の半数以下に減少しましたが、例年より高い値で推移しています。1～3歳の報告が8割を占めています。宇城、次いで八代、菊池地区からの報告が多くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 報告数400件(前月比1.1、前年同月比10.3)でした。1年前からの増加傾向は続いていて、流行はなかなか終息に向かいません。前月最多であった有明地区からの報告は減少しましたが、菊池地区からはまだ多く報告されています。
8. 突発性発疹 : 報告数103件(前月比0.8、前年同月比0.7)でした。前月比、前年比とも大きな変動はありません。6ヶ月から1歳の報告がほとんどです。菊池から多く報告されました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数34件(前月比0.6、前年同月比5.7)でした。7月のピーク以降は減少傾向が続いていて、例年並みの推移です。年齢別では1歳が最多で、1～2歳で6割を占めています。天草地区から多く報告されました。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数15件(前月比1.7、前年同月比0.5)でした。9月から減少傾向が続いていましたが、1月は増加に転じました。人吉と山鹿を除く各地区から少数ずつ報告があります。

### 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 53 件(前月比 1.2、前年同月 0.7)熊本 30 件、菊池 5 件、有明 18 件の報告です。  
今月は八代からの報告はありません。年齢別では 20~49 歳にピークがありますが、1~3 歳、50 歳以上にも散発しています。

### STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :  
報告数60件(前月比1.2、前年同月比1.1)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に35件と多く見られました。年齢別では、男性は20~44歳に29件と多く、女性も15~34歳に24件と多く見られています。地区別は、熊本が44件と圧倒的に多く、次いで御船で6件(全員女性)、八代、有明、宇城に各3件、人吉に1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :  
報告数22件(前月比0.9、前年同月比0.6)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に14件とやや多く見られました。年齢別では、男性は15~64歳、女性も25~54歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が15件と多く、次いで宇城4件、菊池、御船、八代に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :  
報告数は12件(前月比1.7、前年同月比2.4)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別では、男性が10件でした。年齢別では、15歳~70歳以上まで幅広く見られています。地区別では、11件が熊本で、1件が御船でした。
4. 淋菌感染症 :  
報告数は15件(前月比2.1、前年同月比0.8)で、前月比からは増加し前年同月比は減少しています。男女別では、12件が男性で、年齢別では15~70歳以上まで幅広く見られています。地区別は、熊本11件と圧倒的に多く、有明が3件、宇城が1件でした。

### 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :  
報告数は23件(前月比:1.0、前年同月比:1.2、男女比:13/10)で横向き軽度増加傾向にあります。熊本(16)、人吉(3)、阿蘇(2)、八代・有明(1)でした。年齢分布としては70歳以上(13)と引き続き高齢者で集中して多く、しかし全年齢層で検出されました。  
▼例年並みの報告数で推移しています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :  
報告数は4件(前月比:1.3、前年同月比:1.0、男女比:2/2)で横向き推移にあります。熊本(3)、山鹿(1)でした。年齢分布としては70歳以上(4)でした。  
▼ほぼ例年並みに推移しています。

### 3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-）で報告はありませんでした。  
▼例年同様に散発的な報告のみになります。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。  
▼例年より少ない経過です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。  
▼例年より少ない経過です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は8件（前月比：0.9、前年同月比：1.0）で若干減少経過にあります。水俣(4)、熊本(3)、天草(1)でした。年齢分布は5-9歳・10-14歳(3)、15-19歳・25-29歳(1)でした。  
▼例年に比べやや高めに推移しています。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。  
▼例年同様に散発的な報告のみになります。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：  
報告数は3件（前月比：-、前年同月比：1.0）で増加傾向にあります。熊本(3)で、5-9歳(2)、10-14歳(1)でした。  
▼例年同様に今後の増加が懸念されます。

## 届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	23件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： デング熱	2件
	レジオネラ症	5件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4件
	後天性免疫不全症候群	2件
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
	播種性クリプトコックス症	1件
	梅毒	7件
	百日咳	25件